

第9回Liquid Biopsy研究会

Liquid Biopsy 2025

プログラム・抄録集

体液による新たな個別化がん医療と
それを越えた応用

New applications of body fluids in personalized
oncology and beyond

2025

2/7 Fri 8 Sat

会場：京王プラザホテル

〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1

当番世話人

佐谷 秀行

藤田医科大学 腫瘍医学研究センター

開催事務局

藤田医科大学 腫瘍医学研究センター
〒470-1192 愛知県豊明市春掛町田楽ヶ窪1番地98

研究会事務局

杏林大学医学部泌尿器科学
〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2
E-mail: liquidbiopsy@ks.kyorin-u.ac.jp

運営準備室

日本コンベンションサービス株式会社内
〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2 大同生命霞が関ビル14階
E-mail: 91b@convention.co.jp

Official website <https://muraa9.wixsite.com/liquidbiopsy> ▶



10:10-11:50

シンポジウム 1 「Circulating Tumor Cells (CTCs、循環腫瘍細胞) 研究の最前線」

座長：佐谷 秀行 藤田医科大学 腫瘍医学研究センター
吉野 知子 東京農工大学 大学院工学研究院 生命機能科学部門

- S1-1 「末梢血循環腫瘍細胞由来オルガノイド作製の試み」
清島 亮 藤田医科大学医学部総合消化器外科／稲城市立病院外科／
慶應義塾大学医学部一般・消化器外科
- S1-2 「CTC 検査の臨床応用について（外注と自院での検出の経験）」
小村 泰雄 りんくうメディカルクリニック
- S1-3 「GPC3, PanCK, and CK7-positive CTCs in HCC diagnosis and prognosis」
黄 忠諤 Cytoaurora Biotechnologies, Inc. Hsinchu Science Park,
Hsinchu, Taiwan
- S1-4 「CTC および CHC の多角的解析による詳細プロファイリングと病態予測への展開」
吉野 知子 東京農工大学大学院 工学研究院 生命機能科学部門

12:05-13:05

**ランチョンセミナー 1 「泌尿器科がんにおけるリキッドバイオプシー研究最前線
～個別化医療への展開～」**

座長：榎田 英樹 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 腫瘍学講座 泌尿器科学分野 教授

- LS1-1 「個別化および Shared ネオアンチゲンを標的としたがん免疫療法の開発」
清谷 一馬 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所
難病・免疫ゲノム研究センター 副センター長
- LS1-2 「リキッドバイオプシーを用いた泌尿器がん診療の展望」
加藤 大悟 大阪大学大学院医学系研究科 器官制御外科学講座（泌尿器科学）講師

共催：Johnson & Johnson メディカルアフェアーズ本部

シンポジウム 1

S1-2 CTC 検査の臨床応用について
(外注と自院での検出の経験)

小村 泰雄¹、村西 寛美¹、高浦 彩那²、福呂 咲²、吉田 史香²、
グエンティ マイティ²、本間 康一郎³



1 りんくうメディカルクリニック

2 りんくうメディカルクリニック 培養部

3 慶應義塾大学 救急医学

当院はがん治療を中心とした自由診療クリニックで、CTC 検査を利用してがん治療にあ
たっている。主に当院で行っている CTC 検査は外注 2 社で、日本遺伝子研究所（仙台）
では比較的成本が安く、10 日以内に結果が判明し、蛍光染色により CTC の TYPE 別
に個数を検出できる。また周囲の細胞と集簇をつくるものをクラスターとしてカウントで
きるところがメリットである。この検査を利用して、CTC 減少に有効と報告もあるヨウ素
療法を実施し経過をフォローできた再発舌癌の患者、また CTC を透析用フィルターで血
中から除去できた患者を報告する。

もう一社は欧州の RGCC 社の CTC 検査であり、高コストと検査日数（およそ 1 か月）は
かかるものの、CTC の抗がん剤や天然成分の耐性や効果などを検出でき、治療薬剤の選択
にも有効に利用できる。現在までのおよそ 5 年間で 80 症例余りを検査しており、原発の
癌種別で抗がん剤の効果の傾向や、同一患者で抗がん剤治療をした場合に CTC の性質や
薬剤耐性も変化してくることがフォローできた患者を報告する。

外注の CTC 検査はコストと時間がかかることと、検出方法が社外秘であり、正確性がど
うなのかを自身で確認できないことが問題である。そこで我々は特殊なフィルターや高速
流路系などで、CTC を検出しパパニコロウ染色や蛍光染色を用いて、自院で CTC を観察
することを試みており、その結果も含め報告する。

利益相反の有無：無

略歴：

1997 年 香川大学卒業 第一内科所属（血液、呼吸器、膠原病、内分泌代謝）

1998 年 呉共済病院（一般内科）

2000 年 南松山病院（一般内科）

2001 年 小倉記念病院（循環器内科）

2005 年 浦添総合病院（循環器内科）

2010 年 回生病院 循環器内科部長

2019 年 りんくうメディカルクリニック院長 ～ 今に至る

専門医 総合内科専門医 循環器専門医 カテーテル治療学会名誉専門医